

経産局で働くと何ができる？ 私たちの提供価値

先輩職員インタビュー 課長補佐（２００３年度入局）

所属：資源エネルギー環境部 電力事業課

氏名：安宅 剛志

入局：２００３年度（平成１５年度）

事務官／技官：技官

略歴：

２００３年４月～ 環境資源課 係員

２００５年４月～ 電力事業課 係員

２００９年５月～ 本省資源エネルギー庁 省エネルギー対策課 係長【出向】

２０１５年４月～ 電力事業課 係長

２０２０年４月～ 地域経済課 係長

２０２１年４月～ 総務課 係長

２０２２年４月～ 電力事業課 課長補佐



Q：入局年度を教えてください。

２００３年度の入局です。大学では土木工学を専攻しており、２００１年度に大学を卒業後、一度民間企業に就職しました。土木工学専攻ということで、道路や海岸の整備といった現場の仕事に憧れがあり、まずは現場でモノを作るような企業に内定を頂きました。仕事をする中で行政機関の方と話をする機会があり、その中で現場の仕事よりも視野の広い仕事をしていることを知り、公務員を志望するようになりました。

民間企業を退職後、公務員を志望して勉強を始め、官庁訪問をする中で経済産業局と出会いました。公務員は規制分野の業務が多いですが、経産局は規制だけではなく、地域の応援団的な前向きな仕事が多いと聞き、経産局に入りたいと思うようになりました。

Q：社会人になってから公務員試験の勉強をするのは大変でしたか？

現場の仕事もハードだったので、それに比べればという思いもありました（笑）また、小学校３年生から１４年間野球をやっていて粘り強さには自信があったので、何とかやりきることがで

きました。仕事を辞めて後が無い状況で公務員試験の勉強をしていたので、必死に勉強した記憶があります。

Q：前向きな業務に惹かれたとのことですが、イメージとのギャップはありましたか？

私は入局してからエネルギー関係の部署が長く、規制行政も経験してきていますが、**経産局は前向きな仕事を担当するセクションがたくさんあり、思った通りの業務内容だと思います。**

Q：入局してからこれまでのキャリアについて教えてください。

1年目はエネルギー関係の部署でした。2年目以降、発電所の規制業務や、発電所が立地している自治体に交付金を交付するセクションを経験した後、総務課という局内全体のとりまとめの課を経験し、その後に本省に出向しました。本省では「家電の省エネ規制」や「省エネ家電エコポイント」という制度の設計に携わりました。本省から戻って会計課を経て、またエネルギー関連の部署に配属となり、省エネや発電所立地地域の支援などを担当しました。**エネルギーを中心に回ってきたキャリアになります。**

Q：現在所属している課での業務内容を教えてください。

発電所が立地している地域に対する支援をしています。経済産業省のミッションの一つに「エネルギーの安定供給」がありますが、発電所は電力の安定供給に欠かせません。自治体や地域住民の理解が得られなければ発電所を稼働することができないので、ご理解を求める必要があります。その一つの方法として、「地域の活性化」があります。発電所の立地という形で国策であるエネルギーの安定供給に協力頂いたことが自分の地域の活性化に繋がっている、と実感して頂くことが重要だと思っています。

北海道は泊発電所がまだ再稼働できていませんが、いざ再稼働というタイミングで**地元の方々のご理解が得られるように、我々としては丁寧にその地域の振興を支援させて頂き、その地域活性化が電力の安定供給につながればと思っています。**

Q：どのような所にやりがいを感じますか？

地域に入り込むので距離が近いところです。一般的には、地域の方との接点は基礎自治体が担っており、国の職員はなかなか入り込めません。一方で、我々のセクションは地域に入り込んで地域のニーズをしっかりと聞いて、それに対して経産省や他省庁の施策を活用して、地域の活性化に繋がるような提案を検討します。

地域との距離が近いので、要望に対して上手く課題が解決できると、直接的に反応を頂けるので、それはすごくやりがいだと思います。また、地域のことを知ることで、より地域を好きになることができるので、楽しい仕事をさせて貰っていると思います。

Q：普段、コミュニケーションで心がけていることはありますか？

親の仕事の都合で転校を繰り返してきたのですが、転校先で自分から話しかけていかないとなかなか上手く事が進まなかったりする体験をしてきたので、自分から話しかけることは苦でない性格です。この自分の性格を活かして、ぐいぐい相手の懐に入っていくことを心がけていると言えるかもしれません。

Q：経産局で働けばそのようなコミュニケーション・対話ができるようになりますか？

そう思います。当局に入局する方は元々コミュニケーション能力が高い方が多いと思うのですが、事業者や地域の方とコミュニケーションを取る経験を積むことで能力は高まっていくと思いますし、そういうことが実現できる職場だと思います。

Q：個人としてやりたいことをできる組織ということでしょうか？

そう思います。一つのミッションに対して色んなアプローチがあると思いますが、そのアプローチは人それぞれ選べる、そのやり方が尊重される職場だと思います。

Q：経産局の魅力・好きな所はどこですか？

自分自身もそうでしたが、若いうちから現場の前線でやらせてもらえる所です。特に今の若い方は立派な方が多いということもあり、直接、事業者や地域の方とやりとりできる場面が比較的早く訪れる気がします。

そういったものが最初はプレッシャーでも、今となっては自分にとって良い経験になったと思います。また、今の自分がそうですが、だんだん上の立場になってくると、若い職員には同じように経験をしてもらいたいと思うので、上司としてハラハラする部分もあります。経産局は若い人に任せるリスクをとりながらも、組織全体として北海道をよくしていこうと考えている方が多い所が魅力だと思います。

Q：経産局の職員は積極的に地域に足を運びますね。

最初は私もあまりそのような認識がなく、経産局は地域の応援団くらいにしか思っていませんでしたが、**地域や事業者を応援するためには、何を思っているのか、何を求められているのか知らなくてはならないですし、そのためには会話・対話をしなければならないと思います。**

更に言うと、私の信条としては、**相手の懐に入って本音をできるだけ聞かせてもらって、その本音を踏まえた上でどのような提案ができるか考える、そういうことが大事だと思っています。**

Q：どうすれば相手の懐に入れますか？

かっこつけないことだと思っています。自分をさらけ出すのがまず大事だと思います。**自分はこういう人間だということを、変に飾らずに素の自分で接すると相手も分かってくれて距離を縮めてくれる気がしています。**

まあ、僕みたいな性格の人間を苦手な人もいるかもしれない（笑）。だけど、私はぐいぐいと相手の懐に入って、相手の本音を聞き出すというのは大事なことだと思っています。

Q：本音を聞き出して対応することで、喜んで貰えることも多いですか？

そうですね。色んな方から感謝の言葉を頂いたり、相談して良かったと言って頂けることも多々あります。

Q：志望者の中には不安な思いのある方もいるかと思っています。

私が入局した当初は、自分のビジョンがなく、先行きが見えなかった。同じようにきつと不安な気持ちで入ってくる方が多いと思いますが、それは誰しもが同じだと思います。

今の若い職員達は、そういった心配ごとを相談できるような近しい先輩とプライベートを含めて交流しているようです。色んな先輩や上の世代の管理職の皆さんは若い人達に寄り添う気持ちを持っており、不安をもって入局したとしてもそういった人達に相談しながら、自分のスキルアップに繋げていける職場だと思うので、**不安があっても心配ないとお伝えしたいです。**

Q：北海道・地域はどのように良いと思いますか？

私はエネルギーの観点で地域に携わることが多いので、風力や太陽光発電等の再生可能エネルギーのポテンシャルが国内で一番高いと言われているこの地域が、**カーボンニュートラルという国の方向性の中で最先端を行くべきだと思っています。**鈴木北海道知事もそういった思いを強くもっていて国と連携した取組を進めて頂いているので、そういった今の機運は北海道にとってもプラスになっていると思います。

経産局は国と地域の結節点だと思いますので、国の中央とのコミュニケーションもしっかりととり、地域のニーズを確実に吸い上げながら、その間をとりもつ役割を担うことが、我々、北海道経産局が北海道の発展のために出来ることかなと思います。

Q：最初に野球の話がありました。野球はいつからやっていたのでしょうか？

野球は小学校からずっとやっています、今でも職場の野球チームの幹事をやっています。今、常時参加するのは12～3名ですが、野球はコミュニケーションツールとしても使えて、仕事で直接の接点がない人とも、一緒に野球や懇親会をすることで、組織力向上に繋がっていると思います。

私は学生時代、転校を繰り返していましたが、野球チームに入ってしまうとすぐに友達が出来ました。スポーツでもスポーツ以外でも何でも良いのですが、共通の好きなモノを通して集まる**枠組みはすごく大事だ**と思っています。

Q：野球以外の枠組を経産局で新たに作っても良いのでしょうか？

全然ありだと思います。やりたいことをみんなでやりましょうと。**最近だと、みんなでマラソン大会に出ようだとか。みんなでキャンプやスキーに行く話もよく聞きます。**

Q：最後に、これから入局を希望する方にメッセージをお願いします。

北海道経済産業局は色んなことができます。とても前向きな仕事が多いので、**みんなで楽しく、前向きに北海道・日本を良くするためお仕事ができれば**と思います。また、先ほどからお話しております我が野球部も「永遠に不滅です」ということで、野球が大好きな方、野球はあまり得意ではなくても興味がある方は、当局を選んでください（笑）。一緒に楽しく、北海道をよくしていきたいと思いますので、よろしくお願いします！

以上